

自治会三ノ文

患者の与論から

生れた自治会

結成までの経緯

「手術して三週間経つたのだが、どうしようも」「君はいつか帰るのかい?」「帰つても金がないし」「お香金はいつ返つて来るんだらう?」「こんな会館が病室の隅で交されるようになって」「専断決断と話しなうがやるが」「患者の会がきんが作つてからをせいで交わすものも皮むかないが」「いやそんなことは後でいふと免に争文抄しよう」「いやまづ同意を身論を」てなことなつたのは去る六月十日頃でした。そこで皆集つて動けないうちにも、分担を決めて「声」を聞いて集めることにした。実行委員は、福井、上沢、高尾、伊藤(いずれも退院患者)が主としてつとめ皆の意見をまとめた。すると出たわく、大井古香金問題から小は水代、又二代に至るまで下白煙者の意見生活の苦しさを買取して貰ふ血が経つた。そこで六月十二日夜には、副院長、事務長、

発行責任者
中野新井町549
綴事外科病院
会自自治会

院長と病室の揮毫希望を述べ、愚昧した結果、病院側の林意により半の同意は一紙の解決案を相たのである。
あとは患者と院長と事務との

口角漸することによつて解決することになり、十五日には「患者自治会」の宣言を回覧となり、圧倒的賛成のもとに委員六人の制度、大部室二人、女子一、二階個室一、階下一)の別項規約の下に病室の「自治会」が出来上つた。

患者自治会役員

自治会役員は現在、その方々に依頼して執行す。

- 酒井 正 (五号室)
 - 大野 義隆 ()
 - 織田 兵子 ()
 - 赤吉 三光 (二階個室)
 - 児島 俊弘 (一階個室)
- このうち児島さんには会計を依頼している他、委員の人達も身中の自由がきつないのでも事務的まことは児島さんにおまかせにやっていた方がおります。

自治会規約

- 一 当会同患者の規程を付かるとともに入院中における親類、病友、文化などの向上に資する。
- 二 事業として、
 - イ 自治会三ノ文の発行
 - ロ 献金会
 - ハ 病院側との懇談会(月最少一回)
 - ニ 患者家族会
 - ホ 退院患者との懇談
 - ヘ その他患者同士の生活相談等
- 三 役員
 - イ 人数 正名(退院患者、大部室)二名、副名(退院患者、大部室)一名、事務員一名(患者)
 - ロ 任期 任期は最大一年とし選定した場合は自動的に選出母体で補充すること。
 - ハ 後継 後継を託してゆく。
 - ニ 五名を共同代表とし、長は病におかさい。
- 四 会計
 - イ 名目 三ヶ月に一回報告する(役員の手紙)
 - ロ 会費は月三十円とする。
- 五 雑 務
 - イ 事務員は自治会に所属する。事務員は役員
 - ロ 事務員は、臨時に自治会に所属する。

「の争ども」

先日、私の地区来た友人が北区では自宅療養者の会の代表の両三に在る交渉から、区議会として正式に精核対策を採りあげることを見出し、ストマイ、パスの一時口香を区で負担することを認めたと話して行った。

これは最近のニュースでも我々の不幸者にとつて参考になるニュースの一つだ。昔田ワソマンがたつた八十四億(実際には五〇億は回収されるから三十四億)の支出にしかならぬ(この精核対策費を「寸寸さる」と言つて先日口香になり厚生省内でも「おんまりだ」と激怒糾弾の聲が上つた)のは何名だが、取この毎でも我々全国百五十万人の救ひのべつだに全額で一方では、東京府を以て二千万と聞いては月も何程かいわぬやうだ。

一俵どつしてで心算に少いのかと想像もどゆら七割割臭いものを見る。中に一さわり目立つものは終戦直後百二十億と警察予備隊費百六十億があつて「ハハ」と思わせる。何時の間にたか比谷公園様に構築中の国庫。ビルが三十億円の子息だと思つては将に発換ものである。戦争により両気が起き、病人は扱され人権が失はれ

てゆく。北区の様に近所隣りの結核患者が手を携えて医師や行政機関を味方につけて斗つてゆく必要を今更のように感じるのです。

日班診療の

記録から

五月始めに入院申込みをしていつたところが今日曲びやつて来た。五月に入院の順得が来たので通知を出しておいたのにその返事が社絶えていた人だ。退院した人から最近の病院の様子を聞いて来たという。

五月頃に較べて患者の医療費負担が少い分感つた。今度はパス、マイシンを使う時は費用を承認されても、そのお金が出る前に二ヶ月かゝるので病人の財政難はますますひどい。病に療養中の改善などで資金を使つてしまつたので、患者自身がお金を貸して貰つていた。輸血料も同じであつた。癌病院では大連輸血をやるから二回の手術時の輸血を合せると四軒五百円位の輸血代がゝる。その他に耐添婦の立替金など約一万円ほどもある。これが患者にとつて相当大きな負担にやつていたのはいい近もない。

患者自治会が六月に発足してから自治会の申入れでこれらは徐々に改善されていつた。今ではパ

ス、マイシンの立替えは無理でない人の他は病院として負担する事になつた。治療材料がさへ削れば医療保護の人の輸血料は輸血協会が立替える事になつた。耐添料は病院として立替はしないが耐添さんに滞つて貰ひ、その間に耐添さんが困つたら病院がお金を貸すと云う形になつた。こういう事が決る前にも事実上は耐添の立替えられたい患者さんは幾人かいたのだつたが……

〇さんは明るい顔をして今日はやつて来た。それはこういう話を部分的にはあつたがシさんに聞いて来たからであつた。

手術を受けようとする患者さんにとつてこれ近にあつたようだ二万円を上廻る立替金は確かに大きな負担であつた。〇さんが入院通知を受け付けた時、残念なことに入院を断念した。然し三ヶ月の間に患者自治会の協力を得て手術を成し遂げた。〇さんを再び入院申込みさせた。〇さんは明るい顔をして帰つていつた。見送りには私は自治会の仕事もどんなに大きな意味をもつかと云うこと、全時に病院が正しい意見を述べるためにも自治会と云う組織がどんなに大きく役立つという事を改めて考えさせられた。

(児島美津子 癌病院医師係)

声



- ▽ 回診は相夜らす定らぬ、日曜の夜なら夜でさちんとやつてほしい。
- ▽ 水代五貫匁(一匁匁十一匁)は病院負担と定つて前よりも良いが水を使わないのに五十五匁もらうのも変だし使つた水はインキにするので同量だから、いつて病院で全部負担するのが本當じやないか。
- ▽ 國に検査問題だが「ペニシリン」三〇万単位以上は自己負担せよ」とは不立派だしが、手紙して五〇万たり六〇万は検査に使つたのだから、たとえ社会保険として許可なくとも町界かのもほで医療費としてとれないでどうか。
- ▽ 輸血代の立書もどうだ、マイシンの仕替と同様難問だがこの操作資金を解決してほしい。
- ▽ 検疫治療は定期曲にやつてもらいたい。
- ▽ 退院後の養護受けの積極的斡旋は自治会でもやを入れたいが病院としても強いのり出してもらいたい。
- ▽ 病室の消毒を定期的にやつてもらいたい。

▽ 水糞たてを病室に掃きつけて自出してもらいたい。

回 答

各陣の声について病院側から次の様な回答がありました。

- ▽ 輸血代は今度から國際医療協会というところで民生より健保よりから去金が出る道待つてくれることになりました。且しこの場合民生の方は治療材料券を事前に望めること、健保の方は何持かの形で確實に血液料が組合から出たら支払うという証拠を發していたと云うてはなりません。民生の方の場合には血液は病院側に支払われるので問題がありませんが健保の方は事々に支払われるのでこの辺の技術的を商議で解決すれば輸血料の自費の心配はいらなく、検疫治療は病院としても本格的にやり出すことになりました。そのために検査部に留用さんと云う青年が入りました。結核研究所に通つて勉強をして眼をならして待つて居るのですや、昨卵器が出来るために折角の腕を振うことが出来ません。腎臓が出来るまでくまらうでしょうかしお待ち下さい。
- あどの回答はまだ追つて……………

T・日のねがい



旅費をと思うけれども私の足元は、健康な方にはごんごんに働くようになってきたもらえるお金はほんの少しが値段はやっぱり背のびをする

T・日のねがいは、
君は抱えていて、物価を考へおびえるより、此でお金を得るというが君の心はみんなの心だ

弟もあつて、電氣もあつて、レーヨン、スワッチなどつたとして私たちが安心しなうけい

魚をとるには、鉄と油、がいるのに、鉄、たちや、油、たちは、魚をたやけておぼろけをたて、人間の悲しむりやうで、はるか昔空にきえてゆく

辛い、辛い、困

もらえるお金で買える水、さよやかき、T・日のねがいを、私たちがはつきりと言おう

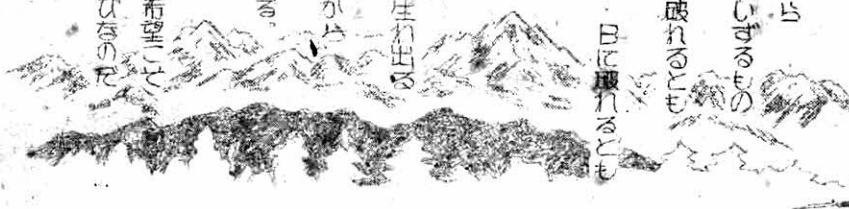
(K)

自由詩

希望



希望は苦しみの中から
 泉のよつにわき出すもの
 若き日の夢、下・日に破れるとも
 大いなる未来の夢、下・日に破れるとも
 てれはひとてまのこと
 さへくの後から
 明日への明るい希望が生れ出る
 苦しむと暗し生活の中から
 泉のよつにわき出てくる
 若者よ、苦しみの中の希望として
 明るい明日へのおたけひをのぞ



自治会員名 誌

- 一 号室 宮城秀友 中野新井町 四一二
- 塚田庄彦 新宿区上落合二ノ六七四
- 二 号室 弥吉三光 古田谷区谷田谷五ノ九四三
- 前沢宮内 大塚区北内郡住道町鐘紡社
- 三 号室 田村辰男
- 大野甚造 立川市野町二ノ七二
- 四 号室 石井房子 中野区新山二ノ一七
- 織田英子 新宿区西落合二ノ四五六
- 水沼啓子 北区神谷町一ノ三二一
- 亦村尚子 板橋区志村野町二〇三
- 伊藤刀男 玉代区神田元又右門町一ノ九
- 龜田庄之助 台東区浅草永任町一四六
- 竹内経夫 豊島区高松町一ノ二六
- 西井正 山根京東山根町東雲村休隠
- 鈴木利夫 杉並区前庭ヶ谷四ノ九二四
- 松宮三郎 中野区打越町四六
- 五 号室 田村 謙 千塚京市原部五井町
- 六 号室 岡 勲 一 駒宮南崎五郎太油村高瀬
- 天崎登夫 中野区上町二四
- 浅田弥生 足立区下谷中一七七
- 七 号室 馬場多加子 新宿区西落合二ノ四〇六

八 号室 小野塚孝太郎

清水道雄 文京区西落合二ノ四〇六

工 号室 堀島俊弘 古田ヶ谷区三軒茶屋二四

俳句

田村辰男

つれづれのやぐさみもある雷雨かな
 また今日もひでりつゞき小唄の声
 手鏡につつして目める窓の月
 あのかすりこのくすりより世の愛

編集後記

自治会が誕生してからも二ヶ月の日が過ぎて
 しました。自治会キ一々同様に二回出すことになり
 したので、本誌一回を同形式で出したことになり、
 ました。編集者が編集なので忙しくて原稿を
 取り寄せていた状態だったので、大きき原稿であつた。
 次第から、どしどし皆さんの御投稿をお寄せ下さい。
 二、自治会発足当初を確して下さつた福井さん、伊藤さ
 ん、上原さん、おはよう退院して、自治会は他の病院で療
 養中である。これからの自治会を育てるべく、協力す
 ること、自治会のために手助けしてくださつた、お礼
 で、お礼を述べさせていただきます。

(編集 輝)